



1年半ぶりに特養を訪問しました。入居者は増えていて大きなホールにとってもたくさん集まり、ざっと数えてもスタッフを含めて100名を超える中での45分間の音楽療法です。認知症や体が不自由な中で入居者の方々は懐かしい歌を歌ったり、体を動かしていると五感が刺激され昔のことを思い出していきました。楽器演奏では事務局長（写真左ピンクのポロシャツの女性）が驚くほど、いつもは何もしない方が一生懸命演奏している姿がありました。



スタッフは入居者の方に寄り添い一緒に音楽療法をします。最初は表情がないのですが、一緒にいるうちに心が開き笑顔がこぼれてきます。皆さん人生の大先輩、長い人生の歴史があります。しかし、なかなかゆっくりと話す機会もないのが現実です。どんなにいい環境を整えても人と人の信頼関係が生まれないとその人は生かされません。一つの笑顔、一言の声掛けが入居者の方の心を開いていきました。写真右のYさんは南一丁目の仮設におられた方です。最初は下を向いて無表情でしたが、藤木先生の音楽療法を受けているうちに仮設の事を思い出し、私たちに話しかけてきました。藤木先生のこと思い出して「あのご主人みたことある」と発言。この満面の笑みの美しさをご覧ください！



今、川内村は田植えが終わり、美しい水田風景が続いています。特養訪問の帰り、私たちは5区に住んでいるIさんのお宅を訪問しました。Iさんは2月に足の手術をして以来ご自宅には戻られておらず私達も心配していました。お宅を訪問してみると洗濯ものが干してあり庭も綺麗に手入れされ畑に苗も植えられていました。風呂に入って寝間着に着替えていたIさんは私達に気付き玄関を開けて満面の笑みを浮かべて出てきました。うれしい再会となりました。今度の音楽療法はいつかと聞いて、7月の予定を伝えました。今回お会いできなかった方も、音楽療法の日を教えてくださいと電話連絡がありました。